

候補者の皆様には、以下の公開質問にお答えいただきたく、お願い申し上げます。

## 1. 空き家バンクの現状と今後について

松江市では市独自に空き家バンクを運営しています。

空き家バンクは、空き家を売りたい・貸したい方と、空き家を利活用したい方を結ぶ、重要な取り組みです。とくに民間不動産業者による取り扱いの少ない里山・郊外周辺部の物件にとっては欠かせない取り組みだと考えます。

しかし、現状の松江市空き家バンクには、3月1日現在7件しか物件が掲載されておりません。これは松江市の空き家件数調査で確認されている数と比較して圧倒的に少なく、適切に機能しているとは言い難い現状です。

他県の取り組みの例だと、NPO法人や一般社団法人に空き家バンク事業を外部委託し、まちづくりや空き家管理業務など民間の要素を取り入れることで成果を出している自治体もあるようです。

こういった空き家バンクの現状と今後について、どう受けとめているのか、また今後市政にどのように反映するのか、ご見解をお聞かせください。

## 2. マイカーに依存する地域の交通アクセス面について

バスや電車等の公共交通機関は、中心地・市街地について主に整備されています。

反面、それ以外の地域については、一部にコミュニティバスが開通している程度で、基本的にはマイカーに依存する暮らしとなります。とすれば地域の高齢化の進行にともない運転免許証の自主返納が進んでいくと、今後の暮らしの成り立ちに大きな影響があることは明らかです。

自治会（町内会）単位での住民負担に任せるばかりでは、各世帯の負担はますます膨れ、今後、住人離れ、地域に家を求める人の減少にも繋がる可能性があります。

JR赤字路線の「存廃論議」なども始まるなかで、コストを抑えた具体的な対策としては地域内での食料品・日用品の調達を支援するといった方法もあるかもしれません。

こういった里山・郊外周辺部の交通アクセス面について、どう受けとめているのか、また今後市政にどのように反映するのか、ご見解をお聞かせください。

### 3. 中山間地域・里山地域の社会インフラの維持管理について

地方自治体・地方公共団体の手によって重要な社会インフラが維持されています。

維持すべきインフラは、街灯やカーブミラーといった設備含む道路の管理・橋梁等構造物の保守・上下水道・治水・海岸線の維持など多岐に渡り、中長期的なインフラの維持管理費は大きな社会的問題となっています。これは松江市も例外ではありません。

社会インフラをどの範囲まで維持するのは都市計画のビジョンに大きく依存するものと考えます。

具体的な対策としては集約型の都市構造（コンパクトシティ）の形成などが挙げられていますが、反面、中山間地域や里山地域の切り捨てに繋がるのではないかとの懸念もあります。

こういった社会インフラの維持管理について、どう受けとめているのか、また今後市政にどのように反映するのか、ご見解をお聞かせください。

### 4. 自治会（町内会）の運営と行政との関わりについて

松江市では「自治会（町内会）」への加入を推奨しています。

自治会（町内会）は、地域住民の自主的な意思による総意に基づき、安心・安全な住み良い豊かな地域づくりをめざして結成された任意の団体であり、地域づくりの中心的な役割を果たしています。

実際には自治会（町内会）への加入は自由ですが、高齢化や若い人の会社勤め、核家族化など様々な要因で自治会（町内会）の運営は困難になっています。空き家などを利用して新たに居住したい人も、諸所の懸念（会費の負担・外から見えづらい運営・役が回ってくるなど）で入りにくいといった声も聞かれます。

自治会（町内会）の運営には基本的にタッチしないというのが行政の現状スタンスかと考えますが、一歩その運営に踏み込むことも必要かもしれません。

実際に空き家活用で居住された方の一例ですが、県内の他市では自治会（町内会）との間に入って調整をしていただいたことで加入への不安要素を定住までに払拭できたため、よりスムーズな居住に繋がったそうです。

これから定住して欲しい若い世代になればなるほどこの部分のハードルをどう下げるかが重要な要素になってくるのではないのでしょうか。

こういった自治会（町内会）の運営と行政との関わりについて、どう受けとめているのか、また今後市政にどのように反映するのか、ご見解をお聞かせください。